

授業改善書

科目名	英語Ⅱ(心理学科)
担当者	現影秀昭

授業の概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の構造を目指す。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、大学生の日常生活を舞台にした会話、文章の理解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用力を高める。

授業の問題点

心理学科の学生のための英語の試みである。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして3.45ポイントであった。
授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては3.98ポイントであった。
授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては3.45ポイントであった。
学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては4.38ポイントであった。

学生の授業満足度

全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は3.95ポイントであった。教員の説明はわかりやすかったですかというアンケート項目についての回答は4.08だった。また授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたが(例えば私語や携帯電話への注意など)というアンケート項目についての回答は3.75であった。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思われる。

授業改善の課題と方策

授業外の学習、たとえば、予習や復習などをしましたかという問いかけにたいして2.78ポイントであった。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思われる。適切な分量と動機づけも必要である。リスニングの音量を上げて欲しいという意見があったので留意したい。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては4.18ポイントであった。毎回、心理学の単語をテストし、授業の初めに学生を指名して前回の復習している。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらい、授業のときに発表してもらうというようなアクティビティーを行う方策が考えられる。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力しているが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思う。90分の授業を適切・有効につかっていたかという問いかけにたいしては4.08ポイントであった。これについては、90分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思う。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのであるが。学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思う。